

# 教宣 せぶん

## 訃報に接して

昨朝、携帯電話が鳴って、栗城さんの訃報が伝えられました。

栗城さんとはちょうど10年前、支部執行委員として一緒に活動したのが出会いでした。支部副委員長として入局した栗城さんは、一世代上の先輩として、当時30歳台が多かった若手執行委員の兄貴的な存在でした。若手の主張や話しを真摯に受け止めてくれる聞き上手な栗城副委員長には、よく二役や三役には話しづらい本音を聞いてもらったことを覚えています。「決して上からものを言わない」「押し付けない」「同じ目線に立って考えてくれる」「ここだけの話しや約束を守ってくれる」、そんなイメージを栗城さんに持っていました。

組合が分裂し、「友呼び運動」を行っていた当時、「栗城さんが戻ってくる」と聞いた時は、本当に大きな喜びでした。その後の全員集会で、栗城さんが紹介された時の、満場いっぱいの割れんばかりの拍手はいまだに耳に残っています。

原告団が組織された後の立食パーティーの席で、「全損保に戻ってくるにあたって相当のプレッシャーを会社からかけられたこと」「支部再建以来、気持ちは常に全損保にあったこと」「お金や安定よりも正しいと思った道を歩んでいこうと思ったこと」など、寡黙な栗城さんから並々ならぬ決意をお伺いしました。

栗城さんの遺志をしっかりと受け継いでいきたいと思います。このたたかい、全面解決までたたかいぬく決意を新たにしました。